

# THE Y S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2019~2020年度 No.237

## 10月報

那須クラブ会長 主題

### 地域につなげ那須ワイズ



強調月間：EMC/E  
YES

### 今月の聖句

相談しなければどんな計画も挫折する。参議が多ければ実現する。

箴言 15 : 22

### ・10月第1例会

日時：10月12日(土) 午前9時~  
場所：アジア学院 (那須塩原市槻沢442-1)  
内容：アジア学院「収穫感謝の日」に参加

日時：10月13日(日) 午前9時~  
場所：アジア学院 (那須塩原市槻沢442-1)  
内容：アジア学院「収穫感謝の日」に参加

両日ともに、那須YMCA・那須ワイズメンズクラブで季節の贈り物、寄贈品の販売等チャリティーバザーを行う。子供たちのゲームコーナーを開く。収益金をアジア学院に寄贈する。

今年度は、台風19号の影響で12日は中止となり、13日のみの開催となった。

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)  
「より良い明日のために今日を築く」  
アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)  
「Action!」  
東日本区理事：(RD) 山田 敏明(十勝)  
「勇気ある変革、愛ある行動!」  
北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)  
「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

### クラブ役員

会長：河野 順子  
副会長：村田 榮・田村 修也  
書記：藤生 強  
会計：村田 榮・鈴木 保江  
担当主事：藤生 強  
ブリテン：田村 修也・村田 榮

### 9月例会データ— (出席率：83.3%)

在籍者 6名  
例会出席者 4名 メネット 2名 YMCAスタッフ 1名  
ゲスト 1名(ユースリーダー) 7名 メイキャップ1名

### 10月 Happy Birthday

なし

### ・11月第2例会(役員会)

日時：11月11日(月) 午後12時30分から  
場所：ココス西那須野乃木店

### ・11月第特別例会(那須街道赤松美林の植樹)

日時：11月2日(土)  
場所：那須街道赤松美林駐車場集合

### ・11月第1例会(日本の伝統芸能(茶道)を学ぶ)

日時：11月23日(土・祝日)  
場所：遠山宗定師匠宅 那須塩原市二区町369

## 10月巻頭言

担当主事 藤生 強

### スポーツの、そして平和な“秋、

今秋は日本国内で「ワールドカップ」が2つ開催されています。「ラグビー・ワールドカップ」は日本代表が大活躍し“にわかファン、が激増するほど盛り上がりを見せています。テレビを着けると、毎日しかも朝から晩までラグビーが取り上げられています。「バレーボール・ワールドカップ」は女子男子とも行われており、日本代表の試合は全試合テレビ中継されています。こちらは“伝統のある、人気スポーツですので、落ち着いた盛り上がりを見せています。

その他、多くのプロスポーツが行われています。プロ野球は日本一を決めるポストシーズンが行われており、サッカーJリーグはシーズン終盤になり優勝だけでなく降格・昇格争いも激しくなっています。バスケットボールBリーグもシーズンがスタートしました。

小学生から大学生・社会人まで幅広い年代で多くのスポーツが行われていることを踏まえると、『ジャンルを問わない日本人のスポーツ好き』『日本は超スポーツ大国』だなと感じます。

「韓国との関係悪化」や「香港市民デモ」の様な政治ニュース、「消費税アップ」や「米中貿易関係悪化」の様な経済ニュースもあるにも関わらず、スポーツニュースが世の中に溢れている様子は『日本は平和だな』と感じます。令和の時代も平和でありますよう願うばかりです。



9月例会 於：西那須野教会 2019年9月27日

## 9月例会

書記 藤生 強

日時：2019年9月27日(金)午後6時30分～

場所：日本キリスト教団西那須野教会

参加者：河野、田村、原田、藤生、の各メン。原田、田村の各メネット。ゲスト・菊池創氏、ユースリーダー7名(西勇祐(ケンイチ)、室橋岳斗(むろさん)、田口小雪(める)、五十嵐啓祐(べこ)、薄井沙也加(ラミ)、寺島菜月(ぷりん)、堀江紗矢(でんでん))、YMCAスタッフ1名(平山主事)。合計15名

9月例会は、7名のユースボランティアリーダーも参加し、賑やかに行われました。

例会の主題が、那須YMCAが2020年夏に開催を準備している「ボランティアスクール」についてのキックオフ(的)なミーティングでしたので、例会に数回参加しているリーダーからも屈託のない意見が出され、活気あふれた例会となりました。

那須Y担当の平山スタッフから高校生ボランティア活動への構想と提案がされました。まず初めに、地域の高校(主に那須拓陽高校)へ「高校生ボランティア募集の案内(説明)」を行い、集まった高校生ボランティアに「『サタデークラブ(西那須野幼稚園が行う土曜預り保育グループ活動であり、那須YMCAがプログラム委託されている)』のリーダー」として活動してもらおう。次に、その高校生ボランティアを中心に「高校生ボランティアグループ」を組織する。次に、2020年夏に開催予定の「ボランティアスクールの運営」を高校生グループにも関わってもらおう。「将来、保育士・幼稚園教諭・教員を目指す高校生にはとても良い経験になる」と高校生たちにはアピールしたいと説明がありました。

その後、ワイズメンバーから色々な意見が出されました。「ボランティア内容に合わせた事前研修を実施したら良い。講師はボランティア先のスタッフなど地域の方が良い」「ボランティア受入施設は通いやすい大田原・西那須野地域が良い」「商業高校などもボランティア活動は重要視しているので、多くの高校へ案内をした方が良い」「児童福祉・高齢者福祉・障がい者福祉など広くボランティア受入依頼をしたら良い」など意見が出されました。那須ワイズは地域サポートをクラブ主題に掲げていることもあり、ワイズメンバーからはたくさんの想いと具体的な提案をたくさん出されました。

今回は「ボランティアスクール」キックオフ的なミーティングでしたので、今後もミーティングを重ね、来夏開催に向けて準備を行っていくこととなり

ました。尚、高校生ボランティア募集については準備次第、案内を行うこととしました。

那須YMCAにおける「ボランティアスクール」は、那須ワイズがチャーターした翌年1996年夏に第1回目が開催されました。当時那須YMCAは設立準備の段階であり、設立後の活動の1つとして那須ワイズ全面サポートのもと「ボランティアスクール」は開催されました。長らく行われていたが、「高等学校によるボランティア体験学習実施の影響による参加者減少」や「那須Y担当スタッフの短年での異動」などによって、ここ数年は開催していませんでした。今回、2018年度から那須Y担当となった平山スタッフが那須地域出身ということもあり、「高校生たちに成長の場を提供したい」という願いを实践すべく、ボランティアスクール再開を計画した次第です。

## 10月第2例会(役員会)報告

日時：10月11日(金)午後6時～

場所：田村副会長宅

出席者：田村副会長、村田副会長、田村メネット、村田メネット、平山YMCAスタッフ。ユースリーダー(寺島菜月(ぷりん)、田口小雪(める)、薄井沙也加(ラミ)、五十嵐啓祐(べこ)、西勇祐(ケンイチ)、室橋岳斗(むろさん)、濱田愛衣(ぽわ))  
協議事項

1. アジア学院の収穫感謝際のバザーの準備状況について。ユースリーダー7名の協力を得て、「季節の送り物」の準備を中心に行う。即売会の品物は、車に乗せたりバラバラになっているものを売りやすいように束ねたりした。なお、12日は、台風の影響により中止となった。



2. アジア学院収穫感謝祭参加の件

10月13日(日)に実施される収穫感謝祭に参加し、バザーを実施。収益金をアジア学院に捧げる。ユースリーダーは4名の参加。午前9時に集合。メンバーは、河野会長、田村副会長、藤生担当主事、村田副会長。メネットは、原田、田村、村田。平山YMCAスタッフ。

3. 11月第1例会は、日本の文化茶道に学ぶとし、11月23日(土・祝日)午後2時から遠山宗定師

匠宅 那須塩原市二区町369で行う。ユースリーダーの参加を期待する。会費は、1,000円。

## 旧西那須野（那須西原）の緑と水（第79回）

田村修也

更に、田嶋董翁は「式終って盛大なる饗宴あり、殿下は大田原に泊せられ、夜は塩那郡両郡、各戸長、各学校長、病院長その他有志をお招きになって、盛んな宴会を催された。この日こそ、那須野が原と、その周辺地方住民のため、真に祝福の日であり、永久に記念すべき日である」と書いています。

翌日の9月16日には、北白川宮能久親王は、帰京の途中、那須開墾社に立ち寄られて、農場の様子等御覧になると共に、農場事務所の南の隅に設けた高台に登られて、かなり開墾された付近一帯の広野を展望になり、自から鋤を取って松の苗木を樹樹されました。（この高台は、那須開墾社が農場事務所に隣接して高さ約3m、周囲30mの土を盛った塚）。これ以降この高台は親王台と呼ばれ、お手植えの松は宮の松と呼ばれていますこの第1農場の後は農地になっていて記念に標柱が建てられていて、すぐ脇を第四分水の加治屋堀が流れています。加治屋は西郷農場です。お手植えの松は今でも健在です。このようにして北白川宮能久親王は帰京いたしました。矢板武さんは宇都宮までお見送りしています。このように大水路開通式はめでたく終了し、直ちに支線である分水の開墾工事に着手いたしました。工事計画の概要は次の通りです。第一分水水量41.70個。分水口を黒磯町大字東原に設けて、同町大字東原豊浦を通過して鍋掛村大字鍋掛、金田村大字羽田に至るもので、（昭和30年の市町村合併で、黒磯町と鍋掛村は黒磯市に、金田村は大田原市に合併、また豊浦は山口県長門の国豊浦郡に由来する地名で、長州藩毛利氏の支藩、県営那須牧場を継承した毛利農場）。第一分水には二つの小分水があり、一つは東那須野村大字佐野開墾に至る水量2.68個、もう一つは黒磯町大字共墾社に至る水量2.24個。第二分水は、水量51.89個で、分水口を高林村大字青木開墾に設けて、黒磯町大字埼玉より、東那須野村を通過して金田村大字倉骨、湯津上村大字蛭田、蛭畑に至るもので、小分水を一つ持っている。黒磯町大字埼玉に至る水量20.49個のもので、第三分水は、水量39.91個で、分水口を狩野村大字三島地内に設け、西那須野町永田、下永田を経て、大田原深川赤堀に至るものです。この分水も小分水を持ち、狩野村南郷屋に至るもので、水量は1.0

6個です（旧三島農場全域）。第四分水は第三分水口分岐点を起点として、西那須野町千本松区、四区、三区、二区、二つ室句を経て、加治屋区に至るもので、水量は75.39個。この支線工事は、前もって出願していたように、土木局によって、大水路通水式終了と共にすぐに着手し、鋭意完成を急ぎましたので、明治19年夏頃までには完成を見えています。こうして、古来一滴の水もないと言われた那須野が原は、人間の体が大動脈を通して、血液を全身に送り込み、その生命を維持し、発達させるように、那珂川の清流が滔々と日夜絶えず原野全地域を潤すようになり、那須野が原大発展の基礎がここに整えられたのでした。しかしながら、第四分水は、那須開墾社の全地域と加治屋開墾第一農場に送水するものですが、那須開墾社においては、南北観象台を結ぶ関八州の三角測量の基線となった約10.6kmの直線道路（一名縦道。西那須野塩原インター繋がるに那須開墾社のメイン道路）沿って、移住民を入植させる計画で、既に分予地を地割りしていました。そのため支線分水もこの所を通したいと希望していました。しかし土木局の設計は、あまり東側に偏っているという理由で、設計を変更していました。那須開墾社は希望を受け入れてもらうために、再三陳情を繰り返しましたが、土木局は受け入れてくれませんでした。通水式の前夜、印南さんは、大田原の宿舎に土木局出張官を訪問して、その変更を懇願したところ、有望な返事を貰うことが出来たので、安心していましたが、いよいよ工事に着手すると、依然設計通りに施工を行うということに決まってしまう。印南さんと矢板さんは憤懣遣る方無く、次のような陳情書を提出するに至りました。（以下次号へ）

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
園長・理事長 福本 光男

台風15号で被災された方々の心、体、そして、社会的健康を祈ります。また、一刻も早く普段の生活に戻れますように。

さて、園庭の栗の放射能が0.24Bq/kgでした。私たちが、想像もしていなかったうれしい測定結果がここ3年続いています。

2011年の東電原発事故の年は、5月末に園庭を除染したにもかかわらず栗の放射能は、60.27Bq/kgを越えました。那須塩原市は郡山市と同程度の汚染地なので、ある程度予想はしていました

が、放射能汚染の数値に大変落胆しました。

一昨年くらいから、放射能が一桁になり、栗を食べられるようになりました。「桃栗三年、柿八年」という言葉がありますが、放射能という環境汚染からの回復は、ゼロからではなく、かなりマイナスからのスタートだと実感しました。園庭のくるみの測定結果も楽しみです。実が多い年は、測定値が下がる傾向があるからです。栗は年長組から食べました。栗の足りない分は2011年から四国徳島県産を購入しています。子どもは大人より約10倍放射能の影響を受けやすいと言われていいますので、アジア学院に測定協力を得ながら、子どもたちの健康の為に留意しています。

ところで、OECD「Education2030」では、これからのVUCA、正解のない時代で、人間がより良い生活に必要な現実と未来に対応する為には、学びのキーコンピテンシー(主能力)として、AIや機械にはまね出来ない人間のキーコンピテンシーとして、①学習者のエージェンシー、②コ・エージェンシー、③インクルージョン(包括)の三点の大切さがあります。

「エージェンシー」とは「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力(白井俊)」です。インクルージョン(包括)は、包括的に子どもの成長をみることです。認知能力だけではなく、社会情動能力も大切というものです。日本には「知徳体」という言葉があります。これは、子どもだけでなく、子どもを中心としたまち作りのなかで、幼児期では地域社会との関わりから生まれる学びです。

先週の年長組「おじいさん・おばあさん、ありがとう会」では、子どもたちには、「自分のおじいさん、おばあさんでないおじいさん・おばあさんと沢山話して」と伝えました。そして、祖父母様には、「地域親としてお孫さん以外の園児に関わって欲しい」とお伝えしました。子どもたちの成長の為のよい出会いになったと考えます。

このほかにも、14年前から更生保護女性の会の皆様が給食の実費を払い、地域親として交代で食べにきて下さっています。更に以前より五軒町区の皆様にわんぱくクリスマス会に参加いただいています。また、18年前からYMCAにお手伝いをいただいているサタデークラブ(年少から小学6年生)には地域の高校生・大学生がボランティアで参加しています。

本園では以前から行ってきたことですが、これら地域の異世代の方々と日常的に関われる環境が、正解の無い時代を生きる、これからの子どもたちに求められるキーコンピテンシー(主能力)に繋がること

を改めて再確認しました。

地域の皆様には、本園へのご協力を感謝申し上げます。(しらゆり 2019.9.20 加筆修正)

## アジア学院だより

学校法人 アジア学院

校長 荒川 朋子

### 尊厳 (Dignity)

先月アジア学院で、尊厳(Dignity)についてのワークショップを日本に長く住むアメリカ人宣教師の方にやっていただいた。尊厳という言葉は使ってはいたものの、これまで深く考えたことがなかった。まだまだ私の理解は浅いのだが、尊厳について新たな理解が与えられ、それを基に自分の発言や行動を意識して行ってみると、新たな発見があったり、人間関係に変化が現れてきたのに驚かされた。

今回教えていただいた尊厳の概念は、世界各地の紛争解決に携わってきたDonna Hicksというアメリカの精神科医の提唱するもので、彼女は尊厳を「生きるものすべての生来の価値と弱さ(もろさ)を認めて受け入れられることから来る、内面の平安」と定義している。彼女は世界の様々な紛争の現場で、知識も経験もある大人がいくら対話を試みても問題の解決に至らない状況を経験して、言葉で現わされないノンバーバル(非言語)の側面に注目し、「人間を理解するうえで重要なのは、一方で人は価値のない者として扱われることに弱く、もう一方では尊厳を認められると安心感を与えられる」、「尊厳理解は人間の内なる力につながっている」という発見をした。

私たちが日々の生活の中で行うことはほぼすべて、自分の尊厳と他者の尊厳に関わっている。この世に起きているほぼすべてのことも、誰か(個人、集団、組織)の尊厳に係わっていると言っても過言ではないかもしれない。自分や誰かが落胆した時は、尊厳が損なわれている時であり、逆に幸せを感じたり、平安を与えられている時は、自分や相手の尊厳が認められている時、つまりその人のもつ生来の価値と弱さ、もろさがともに十分に認められ受け入れられている時なのだ。これは個人レベルでも、集団でも、組織でも、大きくは国家レベルでも同様のことが言える。

日韓の対立、香港での抗議運動、16歳のグretaさんの地球温暖化への大人の無策と無責任に対する怒りなど、今世界で起きている問題を見てみても、当事者たちはみな尊厳を深く傷つけられていることが

